

〔 横浜市芸能センター（横浜にぎわい座） 〕
 令和4年度業務計画及び収支予算
 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所在地	横浜市中区野毛町3-110-1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上13階建の地下2階から地上4階及び地上5階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 4,358.97 m ²
開館日	平成14年4月13日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地
代表者	理事長 近藤誠一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	令和4年4月1日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

大衆芸能は日常生活の中で、人々の心の拠り所となる親しみやすさを持ち、生きる活力を生み出す原動力にもなっています。また、落語、講談、浪曲からは、人々は敬い、助け合うことが大切であり、一人では解決できないことも打開する知恵を授かることができるといった教を学べます。

第4期指定管理期間では、常打公演「にぎわい寄席」「企画公演」を中核に据えた事業展開を継続しながら、大衆芸能の広い芸種の普及、社会包摂の取り組み、地域との連携等の事業を強化し、より公共施設としての役割を意識した運営に注力してまいります。

【基本方針】

大衆芸能の魅力を広め、地域の賑わいと、人々の交流を促し、豊かな人間性を育む演芸場を目指します。

- 方針1 魅力あふれる多彩な公演を主催し、だれもが気軽に大衆芸能を楽しめる演芸場
- 方針2 ベテランから若手までが芸を磨く道場であり、晴れ舞台でもある演芸場
- 方針3 横浜の劇場街の賑わいを現代に創出し、人々の交流を生み出す演芸場
- 方針4 専門館としてのブランド力による安定的で持続可能な演芸場の運営

(2) 令和4年度の業務の方針

ア 全体について

令和4年度は、第四期指定管理期間の初年度として、掲げた基本方針を目標に、コロナ禍であっても開館20周年記念事業を中心に経常公演全体を安定的に実施し、社会の大衆芸能への関心の高まりを、観客創造につなげ、日本の伝統文化や古典芸能への入り口としての役割を果たします。また、寄席体験や学校等へのアウトリーチ、若手演者の育成、野毛地区との連携などさまざまな取り組みを進め、私たちへ求められる多様な役割を果たしていきます。

イ 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

開館20周年事業を中心にさまざまな形態の公演を催すことによって、幅広い世代やさまざまな市民層に大衆芸能への関心と理解を高める場となるよう機能させます。

ウ 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

さまざまな切り口のプログラムを実施することで、大衆芸能を中心とした文化芸術活動の創作や体験等の場を提供します。

エ 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

若手演者の育成に取り組むとともに、子どもに向けた鑑賞の機会を設け、次世代を担う人材の育成に取り組めます。

オ 使命4 地域のにぎわいを創出する

地域の多様な団体等と連携して、地域のにぎわいづくりに貢献します。

カ 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

市内唯一の大衆芸能の拠点として親しまれる施設となるように、あらゆる人たちを受け入れます。

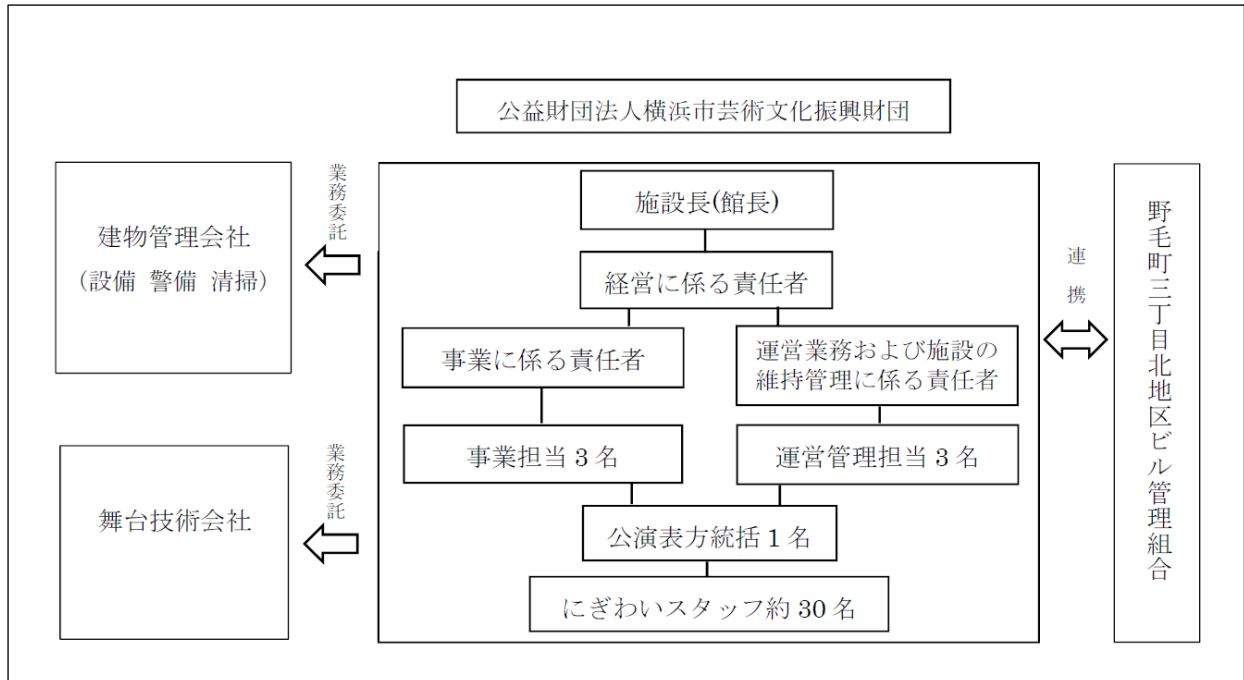
キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

施設運営の持続可能性を高めるために、中長期的な視点で総合的な施設の維持管理を行います。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するとともに、来館者の安全、安心を第一に配慮した施設運営を行います。

4 運営組織の構造、人員配置



職員	雇用形態	1日の勤務時間	休日設定
館長(施設長)	職員	7時間45分(シフト制/休憩1時間) ※基本シフト：早番 9:30～18:15 遅番 13:15～22:00 ※その他、業務に応じて複数の勤務時間体系から選択可能 (職員就業規定に基づく)	月ごとに土日祝日に相当する日数を公休日として指定。業務に応じたシフト制(不定休)。
経営に係る責任者	職員		
事業に係る責任者	職員		
運営業務および施設の維持管理に係る責任者	職員		
事業担当①	職員		
事業担当②	職員		
事業担当③	職員		
運営管理担当①	職員		
運営管理担当②	職員		
運営管理担当③	臨時雇用職員		
公演表方統括	臨時雇用職員	4時間10分(シフト制/月15日前後)	週3～4日
にぎわいスタッフ	臨時雇用職員		

大衆芸能に関する高度な知識、演芸界や野毛地域をはじめとする幅広い人脈、劇場運営や安全管理等に対する高い見識などを併せ持つ館長を施設長として配置し、総合的な視点から大衆芸能の専門館に相応しい施設マネジメントを行います。また経営に関する責任者として、文化施設における豊富な運営経験やノウハウを持つ職員を配置し、館長のマネジメントをしっかりと支えます。

事業に係る責任者として芸術文化事業の企画制作や広報の業務に豊かな経験を有する職員を配置し館長の方針を主催事業に反映させます。運営業務ならびに施設の維持管理に係る責任者として施設運営や維持管理に長年の勤務実績を有する職員を配置します。

設備管理、清掃、警備、舞台技術の各業務についてはそれぞれの業務に高い専門性を有する会社に業務委託します。業務の履行状況を適切に管理しつつ経費の効率化もあわせて推進します。

5 令和4年度の業務の取組

(1) 文化事業

主に大衆芸能に親しむ入り口としての「横浜にぎわい寄席」、高度な実力を持つさまざまな演者の魅力をとおして大衆芸能を深く理解する各種独演会など公演毎の機能を明確にし、毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催します。特に20周年記念公演として「野毛名物の落語会」や、立川志の輔、柳家喬太郎を始めとしたえりすぐりの出演者による記念公演を華やかに開催します。また、昨年度好評を博した野球、鉄道などの「趣味をテーマの演芸会」を時節にあわせて開催します。さらに、子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成を推進するとともに、地元野毛地区をはじめとして地域の多様な団体等と連携し、まちなにぎわいの創出にも寄与します。

具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

(2) 施設運営

利用者、来館者の声に耳を傾けながら、高度かつ専門的なノウハウを発揮する組織的な施設運営を行い、引き続き安心・安全に施設を利用できるよう万全を期します。コロナ禍の収束を見据えつつ、演芸ホールとしての専門特性を広く周知するとともに、大衆芸能公演の開催ノウハウを施設利用者に提供し、プロの演芸家や団体が開催する公演の利用を促し、主催公演のラインナップとの相乗効果をはかります。

具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

(3) 施設管理

施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるように適切な管理を行います。感染症対策についてもガイドラインの動向に寄り添いながら、これまで培ってきた知見を最大限活用して実施します。施設及び設備の維持保全及び修繕については、利用者、来館者が安全かつ快適に利用できるように適宜適切に取り組むとともに、大きな修繕については、横浜市と十分協議を進めながら施設及び設備の長寿命化の視点で計画立案します。

具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

(4) 収支

令和4年度はコロナ禍収束を見据えて、新規鑑賞者や団体鑑賞者に向けたチケット販売促進や、プロの演芸家や主催団体との共催事業の誘致による稼働率の向上に積極的に取り組むなど事業収入、利用料収入の確保を重点的に取組みます。また公益性の高い事業においては積極的に助成制度を活用し財源確保に努めます。

具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和4年度は日報、月報の作成・管理を重点的に取組みます。

具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

(6) その他

令和4年度は高度かつ専門的なノウハウの発揮と、市民サービスの向上を、専門文化施設の特性を踏まえて共に発揮するため、市及び関係機関等との連絡調整を重点的に取組みます。

具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	鑑賞型事業のメ ニューのジャン ル数、実施回数 及び入場者数	ジャンル数	—	25	—	—	25	—
		実施回数	—	200回	—	—	200回	—
		入場者数	—	35,000 人	—	—	50,000 人	—
2	展示型事業の実施回数	—	8回	—	—	8回	—	
3	来場者(参加者)満足度(アン ケート集計)	—	4.2	—	—	4.5	—	
4 ★	票券システム、ゲッティの 会員数	—	25,000 人	—	—	29,000 人	—	
5 ★	横浜にぎわい寄席の初来館者 の割合	—	40%	—	—	50%	—	

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	鑑賞型事 業及び展 示型事業 の参加者 の声	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケートに楽しんだ旨の感想が寄せられる
		R 8 実績	—
2 ★	広報媒体 に寄せら れた感想 や意見	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	自主公演を他者に薦める感想が散見される
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

- ・4月興行、5月興行を中心に20周年記念公演として野毛名物の落語会やこれまで当館とかわりの深い選りすぐりの出演者による公演を華やかに開催します。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供」に記載の取組を行います。

(2) 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	総来場者数	—	75,000 人	—	—	—	110,000 人	—
2	貸館利用率	芸能ホール	—	75%	—	—	80%	—
		小ホール	—	60%	—	—	70%	—
3	体験型事業のジャンル数及び実施回数	ジャンル数	—	4	—	—	4	—
		実施回数	—	25	—	—	25	—
4 ★	公演誘致数	—	5	—	—	—	10	—
5 ★	利用者施設見学	—	10	—	—	—	30	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	貸出室場の利用者アンケートを実施している
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	対応が必要と判断される要望に対し迅速に行動できている
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

・寄席文字ワークショップなど各種体験型ワークショップ等を開催し、また経常公演前後の寄席囲を使用したホールの活用に取り組みます。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅰ文化事業」「2 大衆芸能の体験の場の提供」及び「Ⅱ施設運営」「1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供」に記載の取組を行います。

(3) 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	若手演者育成事業の実施回数	—	180回	—	—	—	200回	—
2	子どもをターゲットとした事業数	—	30	—	—	—	35	—
3 ★	若手演者育成公演の平均入場者数	—	100人	—	—	—	110人	—
4 ★	横浜にぎわい寄席への学生、子ども入場者数	—	700人	—	—	—	800人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもたちや学校の声	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	学校から大衆芸能の体験やアウトリーチを望む声が横浜にぎわい座に寄せられている
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ・若手演者研鑽の場である「登竜門シリーズ in のげシャール」を年間通じて開催します。また、横浜にぎわい寄席や独演会等での若手登用を積極的に取り組みます。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成」に記載の取組を行います。

(4) 使命4 地域のにぎわいを創出する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	—	6	—	—	—	10	—
2 ★	自主事業公演への団体誘致数	—	50	—	—	—	70	—
3 ★	野毛共催事業数 (利用促進委員会)	—	3	—	—	—	5	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	地域団体との意見交換等による現状把握	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し地域団体の要望を的確に把握したうえでの連携ができています
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	地域団体のより幅広い各種会合に積極的に参加し、横浜にぎわい座に対する地域のさまざまな期待を把握できている
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

- ・野毛大道芸をはじめ、野毛地区街づくり会や野毛飲食業協同組合と連携してイベントの開催や広報活動を行います。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与」に記載の取組を行います。

(5) 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	—	110	—	—	—	120	—
2 ★	横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数	—	2000 人	—	—	—	3000人	—
3 ★	横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数	—	300人	—	—	—	700人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	バリアフリー視点からの来館者の声	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 8 実績	—
2 ★	バリアフリー設備の維持管理	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	機能の適正な維持
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	機能の適正な維持
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

- ・にぎわい寄席をあらゆる人を受け入れる基盤として、誰もが楽しめる場として進化させます。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出」に記載の取組を行います。

(6) 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	—	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施	—	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	—	90%	—	—	—	90%	—
4 ★	来館者アンケートの施設快適性評価 /5 点満点	—	4.2	—	—	—	4.4	—
5 ★	バリアフリー設備の維持管理	—	2回	—	—	—	2回	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	施設利用者へのアンケート回収時に利用者の協力を得られる場合はヒアリングを行っている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用者へのヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策検討を行っている。
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	第四期指定管理期間の管理運営費の推移の中で変動のある科目について要因を分析し改善案を策定する。
		R 8 実績	—

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

- ・「指定管理者業務の基準」等に示された業務を着実に遺漏なく実施します。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅲ施設管理」に記載の取組を行います。

令和4年度 横浜にぎわい座会計 収支予算書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	213,940,000	0	213,940,000	0	213,940,000	横浜市より
利用料金収入	12,000,000	0	12,000,000	0	12,000,000	施設利用料、附帯設備利用料
自主事業収入	110,000,000	0	110,000,000	0	110,000,000	公演チケット収入、講座料収入、貸切公演等の受託料収入ほか
雑入	7,320,000	0	7,320,000	0	7,320,000	
自動販売機手数料	270,000	0	270,000	0	270,000	3階売店及び自動販売機売上手数料
協賛金・助成金・負担金・寄附金	6,600,000	0	6,600,000	0	6,600,000	文化庁補助金、アウトリーチ負担金、事業協賛金ほか
その他	450,000	0	450,000	0	450,000	
収入合計	343,260,000	0	343,260,000	0	343,260,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	91,451,000	0	91,451,000	0	91,451,000	職員、アルバイト、にぎスタ人件費
給与・賃金	72,767,000	0	72,767,000	0	72,767,000	
社会保険料	10,962,000	0	10,962,000	0	10,962,000	
通勤手当	4,836,000	0	4,836,000	0	4,836,000	
健康診断費	121,000	0	121,000	0	121,000	
勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000	0	54,000	
退職給付引当金繰入額	2,711,000	0	2,711,000	0	2,711,000	
事務費	7,119,000	0	7,119,000	0	7,119,000	
旅費	120,000	0	120,000	0	120,000	日常出張代等
消耗品費	1,100,000	0	1,100,000	0	1,100,000	日常消耗品代等
印刷製本費	200,000	0	200,000	0	200,000	封筒増刷代等
通信費	950,000	0	950,000	0	950,000	電話代、郵送料等
使用料及び賃借料	1,922,000	0	1,922,000	0	1,922,000	
横浜市への支払分	202,000	0	202,000	0	202,000	市目的外使用料(3階売店、2階グッズ販売、自動販売機)
その他	1,720,000	0	1,720,000	0	1,720,000	コピー機、CATV等使用料
備品購入費	200,000	0	200,000	0	200,000	貸出備品等更新
図書購入費	20,000	0	20,000	0	20,000	参考図書購入等
施設賠償責任保険	54,000	0	54,000	0	54,000	
職員等研修費	50,000	0	50,000	0	50,000	資格取得代等
振込手数料	90,000	0	90,000	0	90,000	振込手数料
リース料	1,500,000	0	1,500,000	0	1,500,000	PC等リース代
手数料	200,000	0	200,000	0	200,000	産廃手数料等
地域協力費	50,000	0	50,000	0	50,000	町内会費等
施設広報費	380,000	0	380,000	0	380,000	施設広告掲載、施設販促物作成
雑支出	283,000	0	283,000	0	283,000	真打昇進披露、式典、供花等
事業費	100,300,000	0	100,300,000	0	100,300,000	
自主事業費	100,300,000	0	100,300,000	0	100,300,000	出演料、舞台技術費、広報物制作費、チケット販売手数料等
管理費	106,956,000	0	106,956,000	0	106,956,000	
光熱水費	18,000,000	0	18,000,000	0	18,000,000	専有部分光熱水費
電気料金	13,000,000	0	13,000,000	0	13,000,000	
ガス料金	3,350,000	0	3,350,000	0	3,350,000	
水道料金	1,650,000	0	1,650,000	0	1,650,000	
清掃費	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	専有部分清掃費
修繕費	1,700,000	0	1,700,000	0	1,700,000	小破修繕
設備保全費	58,256,000	0	58,256,000	0	58,256,000	
専有部分管理費	43,226,000	0	43,226,000	0	43,226,000	専有部分の設備管理費、警備費、機械警備費、清掃費等
舞台技術費	15,030,000	0	15,030,000	0	15,030,000	ホール等日常管理業務等
共益費	18,000,000	0	18,000,000	0	18,000,000	ビル共用部管理費
公租公課	12,187,000	0	12,187,000	0	12,187,000	
消費税	12,097,000	0	12,097,000	0	12,097,000	
印紙税	70,000	0	70,000	0	70,000	
その他	20,000	0	20,000	0	20,000	
事務経費	25,247,000	0	25,247,000	0	25,247,000	
本部分	25,247,000	0	25,247,000	0	25,247,000	事務局積算による数値
支出合計	343,260,000	0	343,260,000	0	343,260,000	
差引	0	0	0	0	0	

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理者 完了確認表

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供(使命1)	1 幅広い大衆芸能の演目について、市民ニーズに応えた多彩な構成で魅力的な公演を常時、企画・実施する	<input type="checkbox"/> 横浜にぎわい寄席	84回			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】	
		<input type="checkbox"/> 企画公演	120回					
		<input type="checkbox"/> 登竜門シリーズ in のげシャレ	25回					
		<input type="checkbox"/> 令和4年4月に開館20周年を迎えるにあたり、当館の目玉となっている公演を集めた、ボリューム感のある記念事業を行います。	実施					
	2 大衆芸能と市民が触れ合い、関心や興味を持つ機会を増やし、若い年代を中心に鑑賞者の拡大をはかる事業を行う	<input type="checkbox"/> 趣味をテーマにした落語会、演芸会	2回					
		<input type="checkbox"/> こども寄席、寄席体験プログラム、学校単位の団体鑑賞	14回					
		<input type="checkbox"/> アウトリーチ	2回					
		<input type="checkbox"/> ワークショップ、講座	5回					
	3 主催公演をデータベース化し、大衆芸能に関する情報とともに広報に役立てる	■野毛地域の協力を得て広報物を配布するとともに、各種媒体への働きかけ、サウンドメディアの積極的な活用による大衆芸能の魅力を発信します。	通年					
		■開館以来の出演者・演目をアーカイブし、出演者の経歴や演目解説も記した「電子根多帳」をホームページ上で公開します。	通年					
	4 展示・演出	■常設展、企画展のための調査、研究を進めるとともに、コロナ禍の状況に留意しながら展示替えを行います。	3回					
		■年間を通じて館内装飾を替え、落語にとって大切な季節感を演出します。	10回					
2 大衆芸能の体験の場の提供(使命2-1)	1 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動の体験の場の提供	<input type="checkbox"/> 寄席文字ワークショップ	1回			【成果】 【課題】		
		<input type="checkbox"/> 水戸大神楽曲芸ワークショップ	1回					
		<input type="checkbox"/> 紙切りワークショップ	1回					
		<input type="checkbox"/> 寄席体験プログラム(再掲)	(I文化事業3-2再掲)					
		<input type="checkbox"/> 学校プログラム(再掲)	(I文化事業3-2再掲)					
		<input type="checkbox"/> 野毛まちなかキャンパス	1回					
3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成(使命3)	1 大衆芸能を支えていくような若手芸人育成	<input type="checkbox"/> 登竜門シリーズ in のげシャレ(再掲)	25回			【成果】 【課題】		
		■にぎわい寄席等での前座修行の場、落語両協会の前座交流の場として若手演者育成に貢献します。	通年					
	2 子どもの創造性育成の取組	<input type="checkbox"/> こども寄席	2回					
		<input type="checkbox"/> 寄席体験プログラム	6回					
		<input type="checkbox"/> 学校単位の団体鑑賞	2回					
		<input type="checkbox"/> 学校プログラム	3回					
		<input type="checkbox"/> 子どもを対象としたワークショップや講座	4回					
		■大衆芸能に関するワンストップ窓口機能や学生や生徒の受け入れを実施します。	通年					

令和4年度 横浜市芸術センター(横浜にぎわい座) 指定管理者 完了確認表

評価項目		令和4年度計画		実施状況		自己評価
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	
4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与(使命4)	1 地域のにぎわいづくりに寄与	□野毛で開催される一大イベント「野毛大道芸」との連携を継続します。	1回			【成果】 【課題】
		□野毛地区街づくり会の「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催で催事を開催します。	2回			
		■ツイッター等を活用し「周辺情報」として野毛のイベントを紹介します。	通年			
		■1階エントランスを地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。	要請に応じて実施			
		■終演後に野毛の飲食店を楽しむ企画づくりのため「野毛飲食業協同組合」等と連携します。	実施			
	2 他施設等との連携	□赤レンガ倉庫1号館など各財団所管専門施設の専門分野を活かして共同で事業を実施します。	1回			
3 都市戦略との連携	□都心部の専門文化施設の一つとして、横浜アーツフェスティバルに積極的に参画します。	1回				
5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出(使命5)	1 視覚障がい者、聴覚障がい者の鑑賞体制充実へ向けてのステップアップ	■視覚や聴覚に障がいのある方も健常者と一緒に演芸を楽しめる環境づくりを目指して、研究を進めます。	実施			【成果】 【課題】
	2 子どもが大衆芸能に接する機会をつくる(1文化事業3-2再掲)	■寄席体験プログラム、学校プログラム、こども寄席などの実施(再掲)	実施			
	3 高齢者が鑑賞しやすい施設運営	■インターネットを使用されないお客様にも配慮し、紙チラシの作成を継続します。	実施			
		■シニア割引等を設定し、比較的購入しやすい価格帯に抑えます。	実施			
	4 障がいのある方にも利用しやすい環境づくり(VI その他5別掲)	■サービス介助士有資格者を現場に配置します。	実施			
		■自主事業においては、盲導犬など補助犬の同伴受け入れ、障がい者および同伴者1名の割引料金を設定します。	実施			
5 外国人に向けた取り組み	■外国人のお客様に大衆芸能をお楽しみいただける企画を研究します。	実施				

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理者 完了確認表

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供(使命2-2)	1 施設の提供	■大衆芸能利用を優先し、大衆芸能とそれ以外のジャンルでは申込開始日を変えて受け付けします。	実施			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
		■利用は、午前10時～午後10時とし利用者からの要望による早入・延長利用は、近隣に配慮しながら可能な範囲で対応します。	実施				
	2 貸館の運営	■貸館受付は午前10時から午後9時、にぎわいスタッフまたは事務室職員が対応します。	実施				
		■貸館利用時は芸能ホール、小ホールともに舞台技術員1名を配置します。	実施				
	3 利用促進及びサービスの向上	■寄席団を使用した経常公演前後のホール活用(再掲)	(Ⅲ施設運営5-1再掲)				
		■1階エントランスを地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。(再掲)	(Ⅲ施設運営5-2再掲)				
		■施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	(使命6定性①)				
		□2階受付でお土産販売を行います。(年間売上目標)	100千円				
		■野毛茶屋は、野毛飲食業協同組合と連携し、コロナ禍収束を見据え再開にむけた協議を継続します。	継続				
2 組織的な施設運営(様式10)	1 必要人材の配置と職能	□施設長(館長)	配置			【成果】 【課題】	
		□経営に係る責任者	配置				
		□事業に係る責任者	配置				
		□運營業務及び施設の維持・管理に係る責任者	配置				
		□事業担当者(3名)	配置				
		□運営管理担当者(3名)	配置				
		□公演表方統括(1名)	配置				
		□にぎわいスタッフ(約30名)	配置				
	2 主要人材の能力担保	■専門職員研修	通年				
		■MBO	通年				
		■事業制作、経理、広報、人権、コンプライアンス等の組織内研修	通年				
		■日常業務におけるOJT	通年				
		□施設内全体研修会	2回				
		□バックステージツアー	5回				
3 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用(様式22)	1 経常公演前後のホール活用	□寄席体験プログラム(再掲)	(Ⅰ文化事業3-2再掲)			【成果】 【課題】	
		□貸切公演(再掲)	(Ⅰ文化事業3-2再掲)				
		□撮影での貸出	2回				
	■ホール見学会	要請に応じて					
	□バックステージツアー	5回					
	■前座の太鼓練習の場	要請に応じて実施					
2 1階エントランスの活用	□地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。	要請次第で実施					
3 配信事業	□主催興行の映像化を制作会社にアピールします。	実施					
4 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出		実施			【成果】 【課題】	
	2 許認可及び届け出		実施				
	3 目的外使用料の申請		実施				
	4 財務状況の確認		実施				

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理者 完了確認表

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 保守管理業務 (使命6)	1 日常点検業務・定期点検業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に示された保守点検業務を着実に遺漏なく実施します。	実施			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
		■定期点検を各月2日程度保守点検日を設けて計画的に実施します。	実施				
	2 施設及び設備の維持保全及び修繕	■点検を通して発見された軽微な不具合箇所について迅速に対応します。	実施				
		■多額の費用や期間を必要とする修繕箇所や、耐用年数等により対応が必要とされる事案については横浜市所管課に報告します。	実施				
	3 備品等の適切な管理	■備品等は、常に良好な状態に保ち、管理します。	実施				
		□年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告します。	実施				
2 環境維持管理業務 (使命6)	1 清掃業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に記載された環境維持管理業務を着実に遺漏なく実施します。	実施			【成果】 【課題】	
		■施設の利用状況等について建物管理会社と緊密に連携を取りながら、利用者がいつでも快適に施設を利用できるよう実施します。	実施				
	2 廃棄物処理及び環境への配慮	■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めます。	実施				
	3 空気環境測定	■法令に従い、浮遊粉じん・二酸化炭素・一酸化炭素・温度・相対湿度・気流の空気環境の測定を2か月に1回実施します。	実施				
3 保安警備業務 (使命6)	保安警備業務	■施設内の保安業務は、管理組合と十分な協議を行った上で実施します。	実施				
4 防火・防災等 (使命6)	平常時の防災対策	■消防法に基づき、甲種防火管理者を選任した上で防災計画書を作成します。	実施			【成果】 【課題】	
		■自衛組織を結成し、日常の防火・防災に努めます。	実施				
		■横浜市防災計画に基づき、対応マニュアルをあらかじめ作成します。	実施				
		■AEDを導入し、適切な管理及び職員への十分な操作研修を実施します。	実施				
5 緊急時の対応 (使命6)	大規模災害への備え	■行政機関において災害対策本部等が設置された場合は、その指示に従うとともに、行政機関と協力し災害対応に協力します。	実施			【成果】 【課題】	
		■大規模災害に備え、保存食や簡易トイレなど災害備蓄品を常備し適切に維持管理します。	実施				
6 その他施設管理に関する事項	1 駐車場管理業務	■横浜にぎわい座専用として持つ33台分の機械式駐車場を安全に適切に管理します。	実施			【成果】 【課題】	
	2 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□甲種防火管理者	配置				
		□サービス助手	配置				

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理者 完了確認表

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式22)	1 自主事業収入	□主催公演200事業以上などを実施し、110百万円の事業収入を目標とします。	110百万円			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
	2 利用料金収入	□共催事業などの誘致等に積極的に取り組み、12百万円の利用料金収入を目標とします。	12百万円				
	3 その他の収入	□収録料、チケット受託違反売、お土産販売などに取組み、70万円の雑収入を目標とします。	70万円				
2 経費削減等効率的運営の努力(様式22)	1 人件費の抑制	■サービスを低下させずに柔軟な人員配置を推進します。	推進			【成果】 【課題】	
	2 委託費の抑制	■前座育成と舞台技術員の配置抑制を併せて推進します。	推進				
	3 印刷製本費の抑制	■広報手法の多様化にあわせ公演チラシの作成部数を抑制します。	抑制				
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 日報、月報の作成・管理	1 日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	実施			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
		□管理運営月等をモニタリングにおいて報告	実施				
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	実施				
		□事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施				
	3 業務評価の実施	□自己評価	実施				
VI その他	選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応(様式23)	1 個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応します。	実施			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
	2 情報公開についての取組	■ホームページ等で業務計画、業務報告、事業・施設の状況を積極的に提供します。	実施				
		■当財団定める「情報公開規程」等に基づき適正に対応します。	実施				
	3 人権尊重についての取組	■職員に対して人権に関する研修を実施します。	実施				
	4 環境への配慮に関する取組	■施設の利用状況に合わせて不要な点灯や空調稼働を最大限抑止します。	実施				
		■広報手法の多様化にあわせ公演チラシの作成部数を抑制します。	実施				
		■利用者によるごみの分別状況を確認し分別の徹底を依頼します。	実施				
5 障害者差別解消	■芸能ホールの車イス席や磁気ループシステムと貸出用補聴器、貸出用車イス、多目的トイレ、身障者用駐車スペース等の設備を整えます。	実施					
	■障がい者支援施設等へのアウトリーチ公演を実施します。	実施					
6 男女共同参画	■男性・女性の別なく職員が活躍する職場づくりを行います。	実施					
7 市内中小企業優先発注についての取組	■原則として業務委託と物品購入は横浜市「物品・委託等有資格者名簿」に登録された企業に発注します。	実施					
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施			【成果】 【課題】	
	2 関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じた関係法令を順守する。	実施				
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は速やかに報告し、随時共有する。	実施				
		■野毛町三丁目北地区ビル管理組合の会合等に参加します。	実施				
	■野毛地区まちづくり会等地域組織の会合等に参加します。	実施					